

人事トピックス

保健学科 検査技術科学専攻 病因・病態検査学講座 教授
川部 勤

〈略歴〉

1987年3月	名古屋大学医学部卒業
1987年4月	社会保険中京病院 嘱託臨床研修医
1988年4月	社会保険中京病院 内科医員
1990年4月	名古屋大学大学院医学研究科博士課程(内科学第一)
1995年7月	米国スローンケタリング癌研究所 生化学遺伝学研究室 研究員 財団法人長寿科学振興財団 総合研究推進事業 日本人派遣研究者
1995年7月	米国ロックフェラー大学 分子遺伝・免疫学研究室 研究員
1996年11月	名古屋大学医学部第一内科研究生
1997年4月	法務技官医務課長(名古屋大学医学部研究生)
1997年10月	名古屋大学医学部附属病院 医員
2004年4月	名古屋大学医学部 保健学科 検査技術科学専攻 助手
2007年4月	名古屋大学医学部 保健学科 検査技術科学専攻 助教
2007年8月	名古屋大学医学部 保健学科 検査技術科学専攻 准教授
2008年4月	名古屋大学医学部 保健学科 検査技術科学専攻 教授

〈業績〉

- Shibasaki M, et al., Kawabe T. Up-regulation of Surfactant Protein Production in a Mouse Model of Secondary Pulmonary Alveolar Proteinosis. Am J Respir Cell Mol Biol in press.
- Pearse RN, Kawabe T, et al. SHIP recruitment attenuates Fc gamma RIIB-induced B cell apoptosis. Immunity, 10: 753-760, 1999.
- Shores EW, Ono M, Kawabe T, et al. T cell development in mice lacking all T cell receptor ζ family members (ζ , η , and Fc ϵ RI γ). J Exp Med 187: 1093-1101, 1998.
- Kamanaka M, Philipp Yu, Yasui T, Yoshida K, Kawabe T, et al. Protective role of CD40 in Leishmania major infection at two distinct phases of cell-mediated immunity. Immunity 4: 275-281, 1996.
- Kawabe T, et al. The immune responses in CD-40-deficient mice: impaired immunoglobulin class switching and germinal center formation. Immunity 1: p167-178, 1994.

学友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平成21年4月1日付けにて名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻教授に着任いたしました。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

私は昭和62年に名古屋大学医学部を卒業し、社会保険中京病院で研修ならびに呼吸器内科医として勤務しました。この間に西脇敬祐先生(現・愛知県健康づくり振興事業団総合健診センター長)のご指導のもと呼吸器内科医としての基礎を築かせて頂きました。気管支喘息をはじめとする多くの免疫・アレルギー疾患患者を担当するうちに発症機序について興味を抱き、平成2年に名古屋大学大学院医学研究科(内科学第一専攻、齋藤英彦名誉教授)に入学しました。M2セミナー等で学部生のころよりお世話になっていた下方 薫先生(前・呼吸器内科教授)をチーフとする呼吸器研究室に所属しました。長谷川好規先生(現教授)が留学から戻られたときで、分子生物学的手法の基礎を教えてくださいいただき、さらに中島 泉先生(前・免疫学教授)が主催されていた免疫学教室で磯部健一先生(現教授)から研究のご指導を受ける機会を得ました。当時の免疫学教室に

は院生として長谷川忠男先生(現・名市大教授)、現・中部大学の市原正智教授、岩本隆司教授と錚々たる先輩方がみえ、実験手技のみならず、自分で考えることの重要性を教えてくださいいただきました。研究では、肺胞マクロファージによるリンパ球増殖抑制が nitric oxide によることを見出しました。研究の面白さを教えていただいた私は、大阪大学の岸本忠三先生(元・阪大総長)の研究室に国内留学し、菊谷 仁先生(現・阪大教授)のご指導のもと残りの大学院時代を過ごすことになりました。ノックアウトマウス作成がテーマの5人の仲間と試行錯誤の末に、私もCD40欠損マウスを作成し、免疫グロブリンのクラススイッチに必須の分子としての役割を明らかにできました。その後米国スローンケタリング研究所ならびにロックフェラー大学に留学し、Jeffery V. Ravetch 先生の研究室で免疫グロブリンの受容体の研究を行い、平成9年に帰国しました。呼吸器内科で内科・呼吸器・アレルギーの専門医として、また平成16年4月に保健学科に移ってからは高木健三教授のご指導のもとアレルギーを研究し、さらに臨床検査医学的な研究にも新たに着手しました。ペプチドを用いたアレルギーの検査法について医工・産学連携プロジェクトの中で太田美智男教授や工学研究科の本多裕之教授をはじめ多くの先生方と研究をさせていただいてきました。大幸地区はここ数年の間に本館をはじめ建物が新しくなりました。研究室のある東館も新しく、鶴舞や東山からほぼ同じ距離にあるこの場所で地の利を生かしたトランスレーショナル・リサーチを主眼に置いた研究を進めていきたいと考えております。

教育についてですが、保健学科では講義や実習、卒研の指導などと学生と接する機会が本当に多いように思います。大学院の前期・後期課程が設置されておりますので院生も含めて、私に研究の面白さを教えてくださった先生方のように学生に接し、知的好奇心を駆りたててあげられればと思っております。また大学院生時代に呼吸器内科・免疫学教室・大阪大学で自分自身が経験させていただいた爆発するような若きエネルギーの塊を育めるような研究の環境が学部生を含め院生に提供できるように努力したいと思っております。

最後になりましたが、これまでご指導していただいた先生方、またともに悩み研究を進めてきた仲間にお礼を申し上げますとともに、学友会の皆様方には益々のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。